



学生支援に関する基礎研修講座
講義5 (2025.8.29)

インターンシップの課題 困難と対応策

児美川 孝一郎 (法政大学)
KOMIKAWA, Koichiro





自己紹介

- 法政大学 キャリアデザイン学部 教授
- 専門は、教育学（青年期教育、キャリア教育）



- キャリアデザイン学部長
- FD推進センター長
- 大学評価室長
- 学習環境センター長
- 教育開発支援機構長

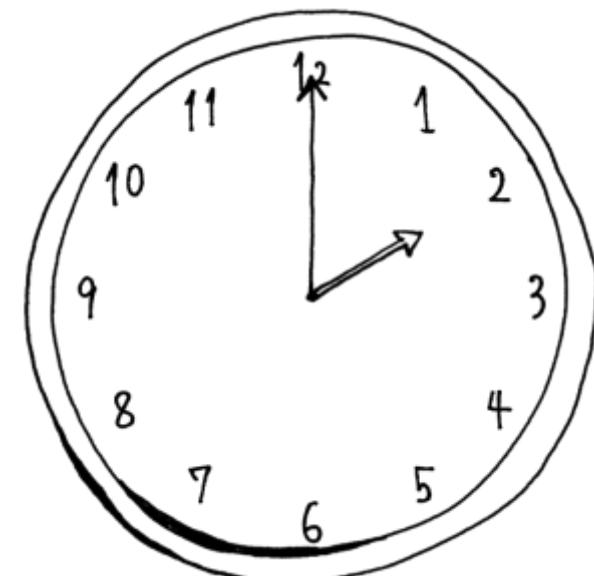
等を歴任する中で考えてきたことをお話しします





タイム・スケジュール

15:20	開会 (5)
	グループワーク I (20)
	講義 I (30)
16:15	休憩 (10)
16:25	グループワーク II (30)
16:55	講義 II、振りかえり (25)
17:20	閉会





《グループワーク I と発表》



グループワーク I

インターンシップへの貴学の取り組みについて、日頃から感じている問題点や課題は？



グループ内での討論：10分
発表とコメント：10分



《講義 I 》



大学がインターンシップに取り組むとは？

A 単位化された科目としてインターンシップ（事前・事後の学習を含む）を実施

A' Aに向けた履修指導、ガイダンスなど

B 学生が自主的に参加するインターンシップ

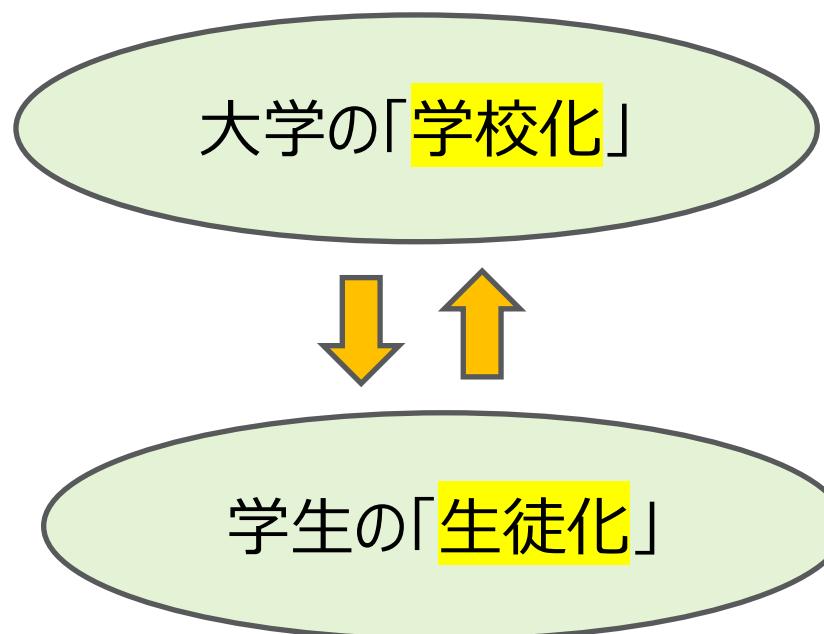
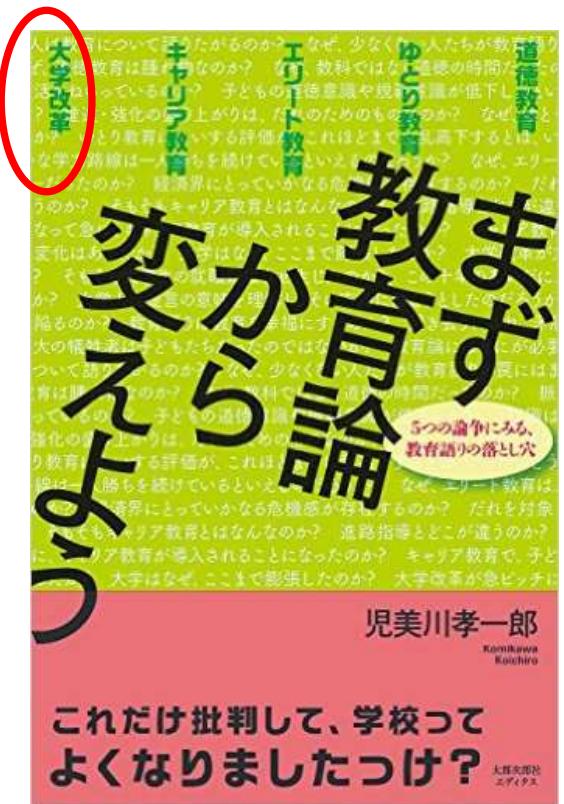
B' Bを促すガイダンス、セミナー、個別相談など





お世話モード

キャリア支援・教育、就職支援に取り組めば取り組むほど、
大学教育は？…《お世話モード》



学生たちは、自分からは動くというよりは、支援してくれるのをじっと待つ…《お任せモード》





◆大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方方に近いですか。

①単位取得

【A】あまり興味がなくても、単位を楽にとれる授業が多い



【B】単位をとるのが難しくても、自分の興味のある授業がよい

②授業難度

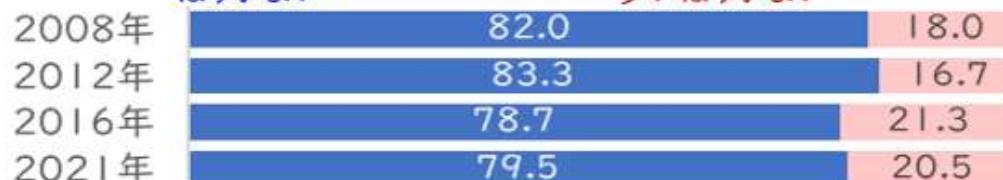
【A】応用・発展的内容は少ないが、基礎・基本を中心の授業がよい



【B】基礎・基本は少ないが、応用・発展的内容が中心の授業がよい

③授業形式

【A】教員が知識・技術を教える講義形式の授業が多いほうがよい



【B】学生が自分で調べて発表する演習形式の授業が多いほうがよい

④身につけたい知識

【A】大学では幅広い分野の知識や技能を身につけたほうがよい



【B】大学では特定の専門分野の知識や技能を身につけたほうがよい

⑤単位の系統

【A】あまり自由に選択履修できなくとも、系統立って学べるほうがよい



【B】あまり系統立てて学べなくとも、自由に選択履修できるほうがよい

⑥学習方法

【A】大学での学習の方法は、大学の授業で指導をうけるのがよい

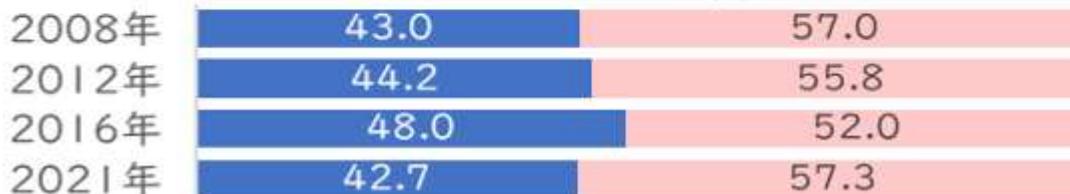


【B】大学での学習の方法は、学生が自分で工夫するのがよい

◆大学教育について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方方に近いですか。

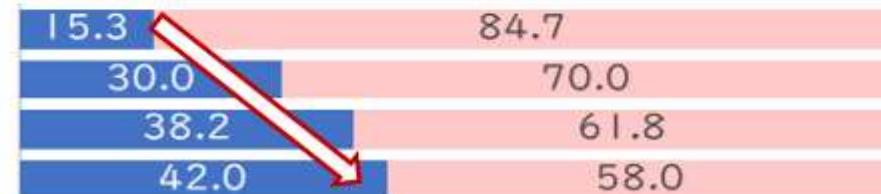
⑦将来決定

【A】学生は将来やりたいことを決めて、授業をうけるほうがよい



⑧学生生活

【A】学生生活については、大学の教員が指導・支援するほうがよい



⑨就職活動

【A】就職については、大学の指導・支援にもとづいて活動する方がよい



⑩重要な学び

【A】大学では、答えのない問題について、自分なりの解を探求する学びが重要だ





インターンシップとは？

「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」（文部科学省、厚生労働省及び経済産業省合意）における定義

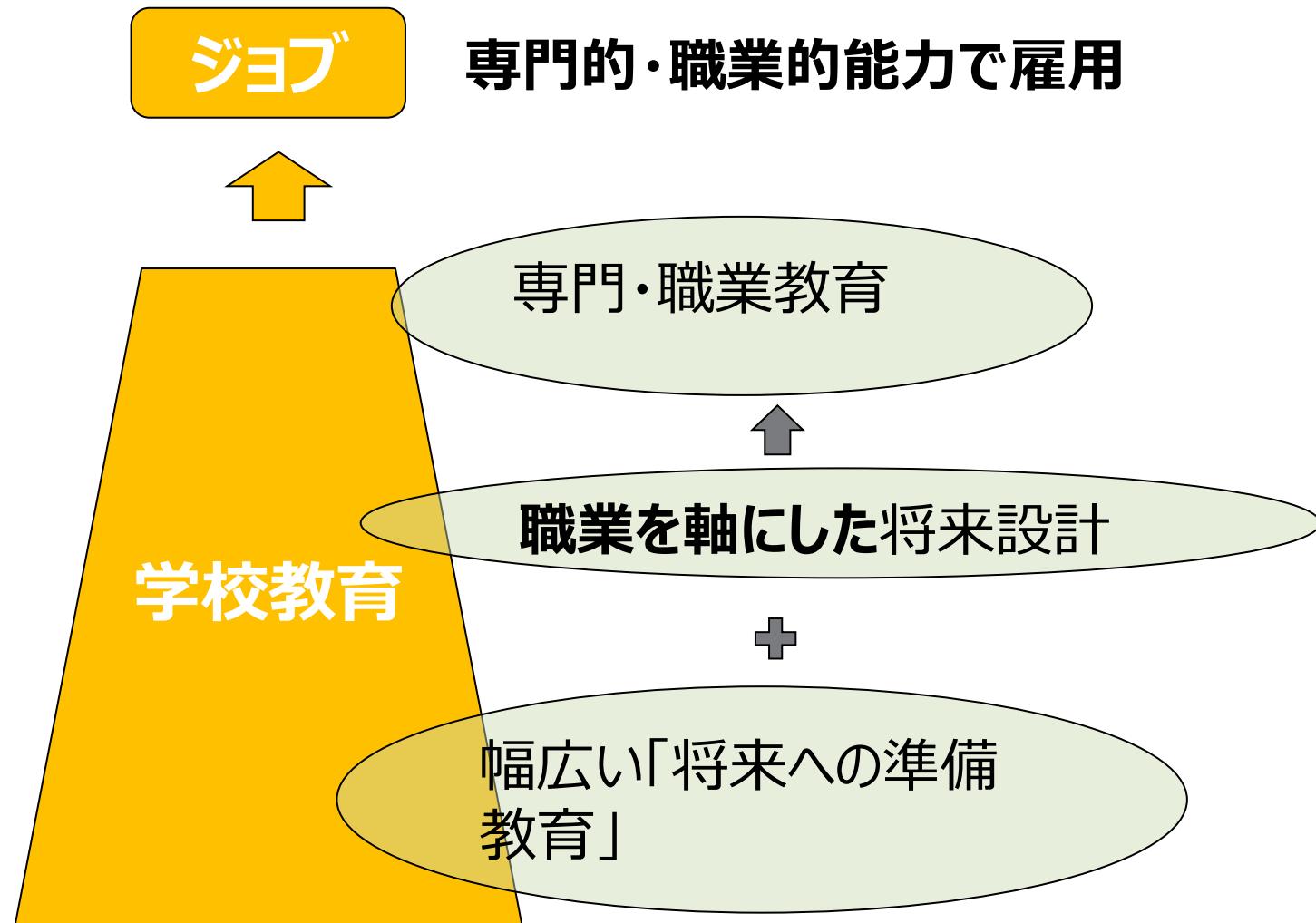
「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」（1997）

「学生がその仕事に就く能力が自らに備わっているかどうか（自らがその仕事で通用するかどうか）を見極めることを目的に、自らの専攻を含む関心分野や将来のキャリアに関連した就業体験（企業の実務を経験すること）を行う活動（但し、学生の学修段階に応じて具体的な内容は異なる）」（2022）



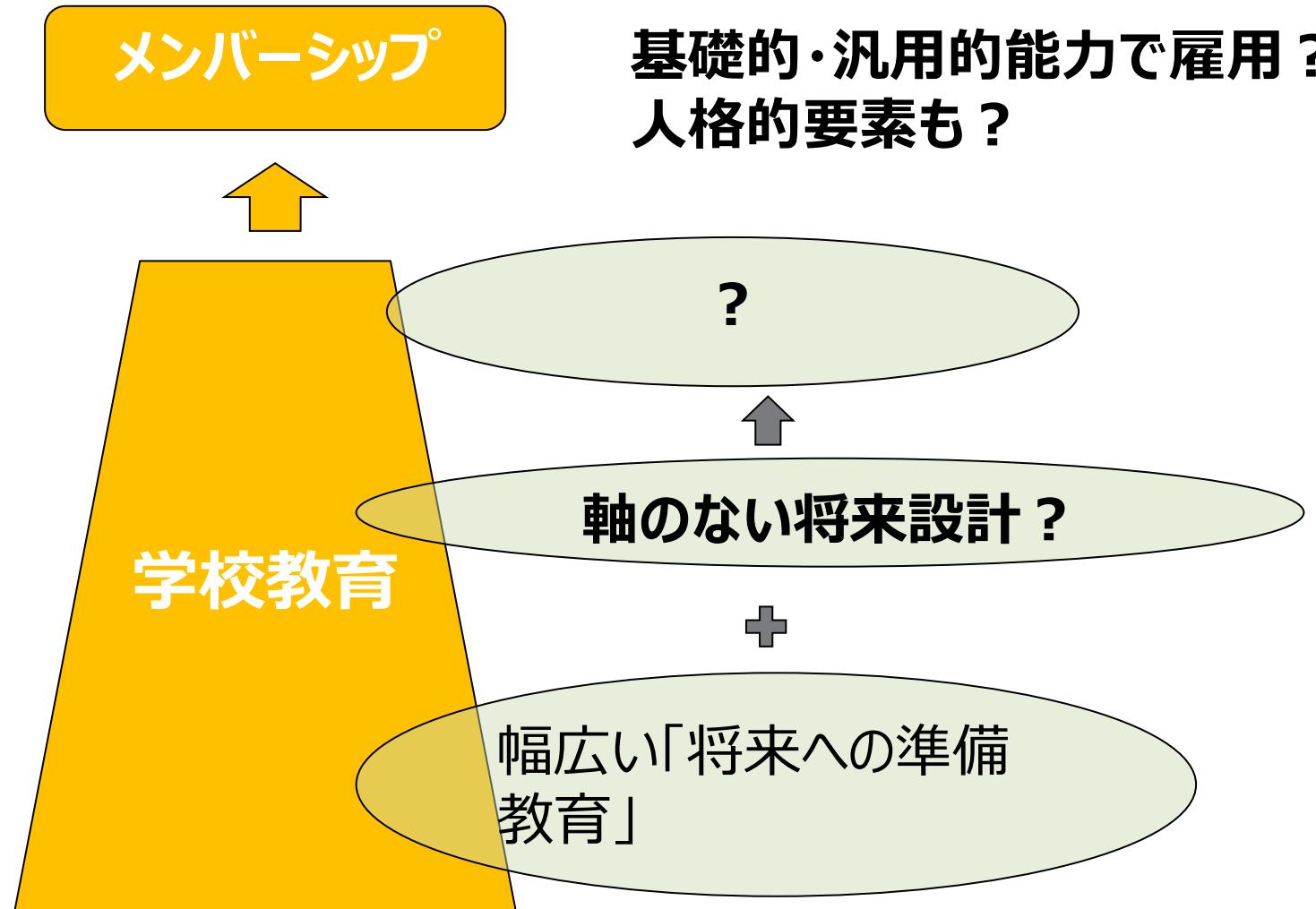


「ジョブ型雇用」の欧米におけるキャリア支援・教育





「メンバーシップ型雇用」の日本におけるキャリア支援・教育





《グループワークⅡと発表》

グループワークⅡ

大学におけるインターンシップ
への取り組みは、こう変えるべき。こう変えていきたい！
(提案を作成してください)



グループ内での討論：20分
発表とコメント：10分



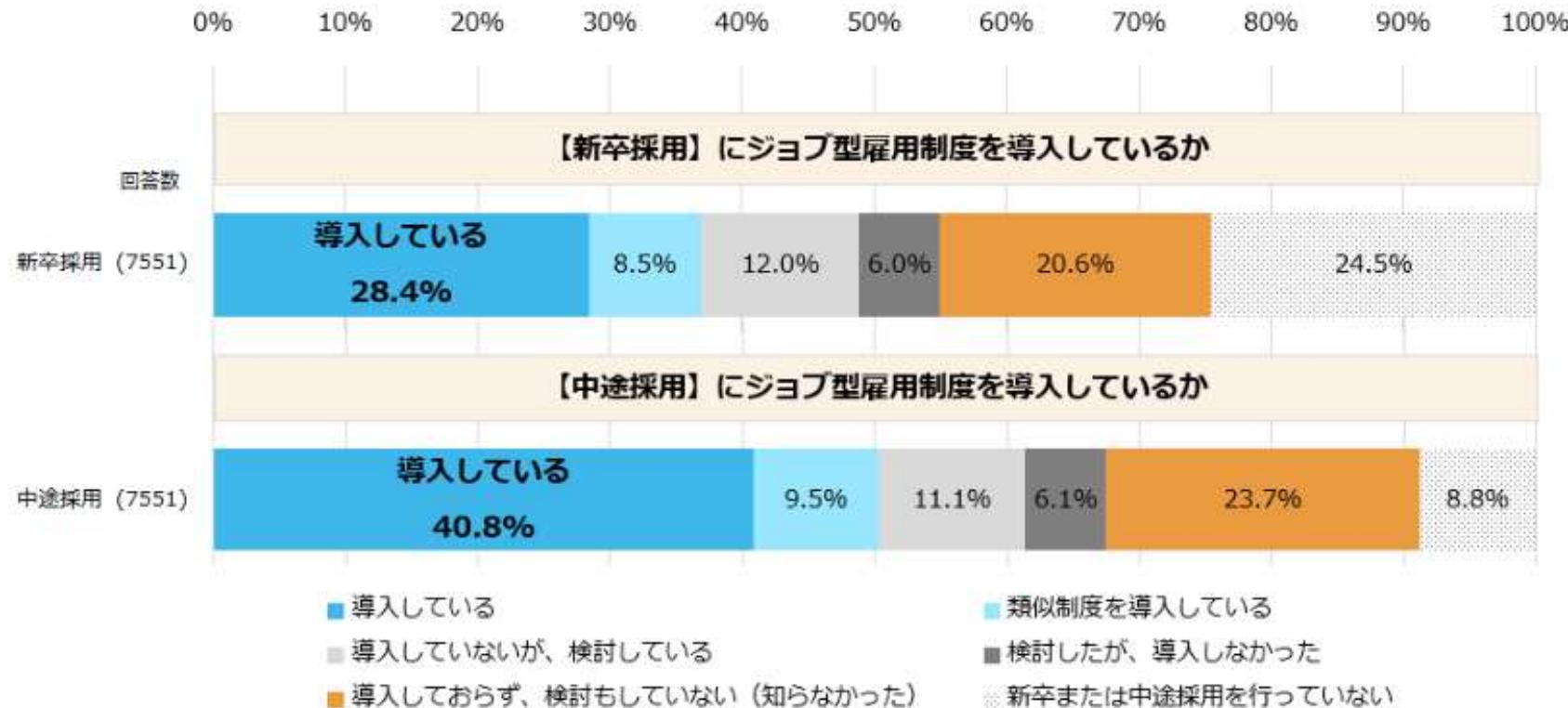
ワークに取り組むときの視点

- ① 自分の大学を想定して、「そんなの無理」「条件や環境が整っていない」となどと言わない!
- ② 思いきり「仮想的有能感」を持っていい!
- ③ 発表のゴール
 - 1 どんな方向をめざすか?
 - 2 大学としては何に取り組むべきか?
 - 3 大学職員としては、何に、どう取り組みか?



《講義Ⅱ》

採用の将来的なトレンド？



マイナビ調査 (2021.8)



「日本経済新聞」2024.4.8



大学教育の目的

学校教育法

第83条 大学は、**学術の中心**として、**広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。**

② 大学は、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、**社会の発展に寄与するものとする。**

- 経済界や政治の世界が、折に触れて発信する「大学教育は役に立っていない」という言説は、何を根拠にしているのか？



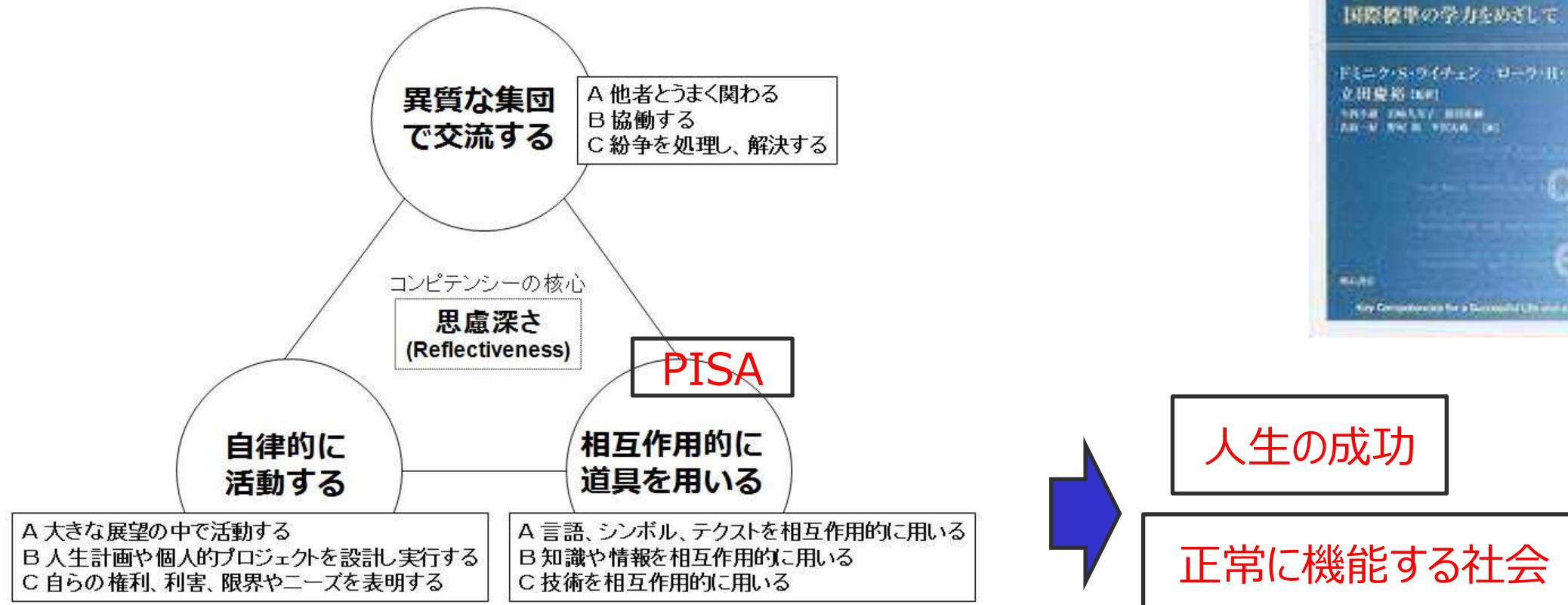


大学教育の本来の役割

- 市民を育てる(シティズンシップ) + 職業人を育てる(エンプロイアビリティ)
- そうであれば、インターンシップだけではなく → サービスラーニング、(社会課題に迫る)PBLも

OECDの DeSeCo (Definition and Selection of Competencies) プロジェクト

図 3つのキー・コンピテンシー





社会正義のキャリア支援

「社会正義」のキャリア支援という問題提起

- ・ 欧州におけるキャリアガイダンス、キャリアカウンセリングで注目の概念
- ・ 従来は、労働市場／教育訓練のマッチングに焦点が当てられてきた。現在では、そこに「何のために？」（＝「社会正義」の観点）が入ってきた

労働市場	• labour market goals
教育訓練	• learning goals
社会正義	• social equity/ social justice

SOCIAL JUSTICE

下村英雄〔著〕

一人ひとりの支援をしているだけでは、とても乗り越えられない壁がある

不安定就労、格差、貧困、外国人、性的少数者など、社会の縮近で苦しむ人々の問題解決に向けて。
いま、全世界で広がりつつある
社会正義＝社会的公正を実現するキャリア支援とは。
キャリア心理学の泰斗による本邦初の本格的な概説書。

図書文化

社会正義のキャリア支援

個人の支援から個を取り巻く社会に広がる支援へ



- 教育やキャリア支援の目的は、個人の幸福追求 + 社会正義の実現
→前者の最大化だけを目的とするようなキャリア支援は許されない
→ましてや、教育機関が行うキャリア支援であれば！
↓
- 「大学におけるキャリア支援・教育は、これまでのままでいいのか？」

	社会に焦点	個人に焦点
変化	ラジカル (社会的変化)	プログレッシブ (個人的変化)
現状維持	コンサバティブ (社会的統制)	リベラル (非指示的)

Watts(1996).Socio-political ideologies in guidance.
In Watts, A. G. et al. (Eds.), Rethinking Careers Education and Guidance: Routledge. pp.352-355.



ラーニング・ブリッジ

- ・ インターンシップ（他の体験型学習）の意義はどこにあるか？

↓

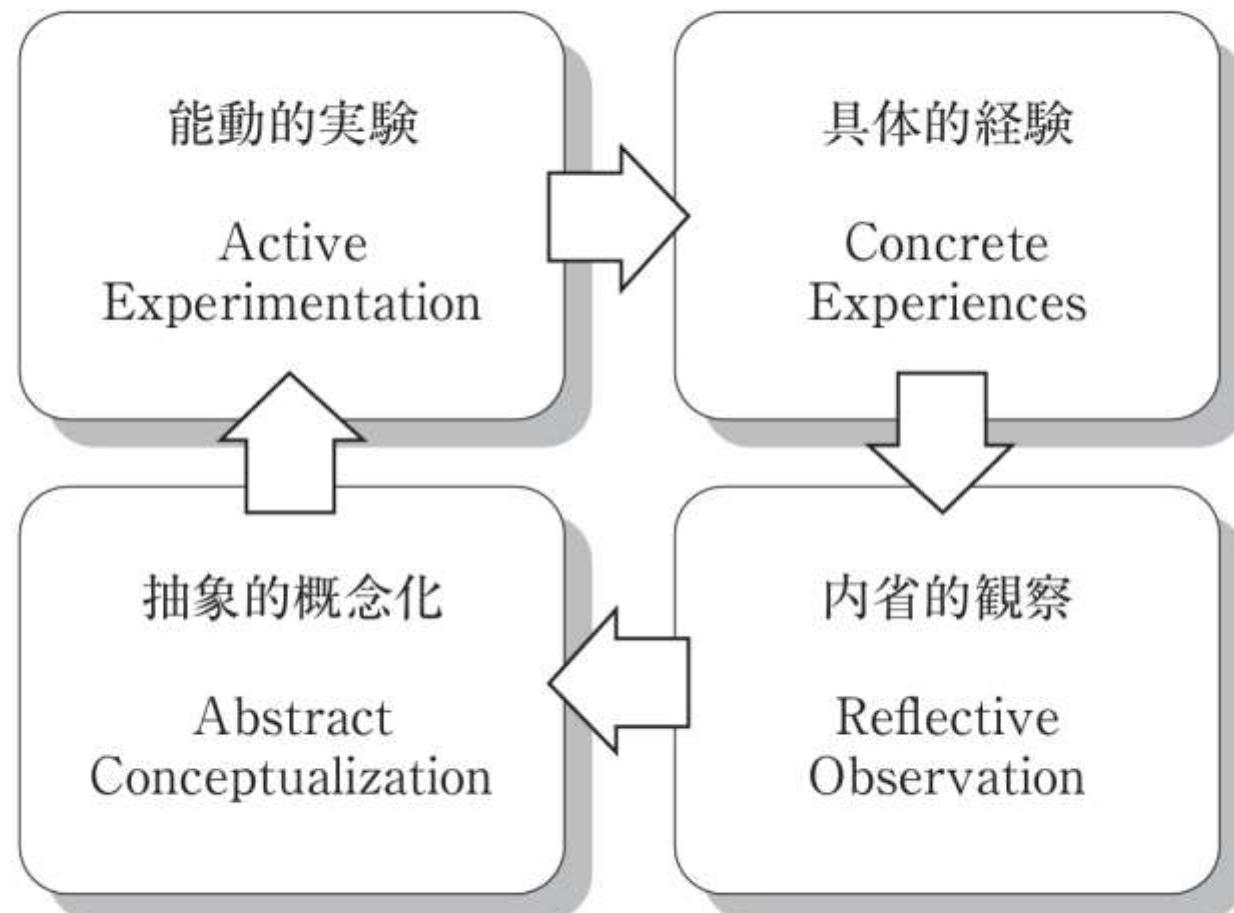
- ・ その体験で得られること
- ・ その体験で得られたことが、他の授業内での学習や授業外での活動での学習に**ブリッジ**していく

↓

そのために必要なことは？



図 1 経験学習モデル



出所：Kolb (1984)



お疲れさまでした

komikawa@hosei.ac.jp

